

# 事前評価報告書

事業名: 千葉県におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業

実行団体: 企業組合労働協働事業団

報告者: 企業組合労働協働事業団

資金分配団体: 公益財団法人パブリックリソース財団

実施時期: 2021年7月～2024年3月

対象地域: 千葉県

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

## 概要

<b>事業概要</b>
「フードバンクちば」では、県内の様々な団体と連携し千葉県全域を活動エリアとして、すでに中核的FB活動に取り組んでいます。今回はその活動を盤石なものにするために3つの柱を掲げます。 ① 業務のIT化による業務負担の軽減・標準化ソフト機能の拡充 ② 物流サテライト拠点の整備（県内3ヶ所）ハード機能の強化 ③ 中核的フードバンクのプラットフォーム機能の充実ネットワークを超えたプラットフォームの構築、物流を最大限の効率で動かし、中核的FB活動を継続させていくこと
<b>中長期アウトカム</b>
千葉県下において、様々な団体(行政、支援団体、企業、市民活動など)が、「フードバンクちば」を中核的フードバンクとして位置づけ、大口の寄贈や大規模な支援など、各団体がそれぞれのニーズや規模感に合った支援(支援する、支援される)活動に参加できるプラットフォームを築き、食品ロス削減に貢献するとともに、適切な支援を実施できる体制をつくる。
<b>短期アウトカム</b>
IT化による事務局が抱えるルーチン業務全般の効率化
在庫管理システムの導入により、各団体それぞれのニーズや規模感に合った食品を適切に配分できる
主要地域の核となる連携団体が、サテライト拠点の運営協力団体として継続的なフードバンク活動を行うことができる
それぞれのサテライト拠点の運営においても地域の公的機関の理解、協力を得ることができる
千葉県下の中核的な役割を果たすプラットフォームとして様々な団体に対して調整・仲介・取りまとめが可能

## 事業の背景

<b>(1) 社会課題</b>
膨大な量の食品ロスがある一方で、生活に困窮する人が増え続けているという社会の矛盾が前提にあり、その両者の橋渡し役がフードバンクちばの役割です。 長期化するコロナ禍の中、千葉県でも「寄贈」「提供」のニーズとも右肩上がりとなっており、県内全域で、困窮し食べ物に困る人に、迅速な食料支援を行う「食のセーフティネット」の構築は急務です。一方で、非営利事業レベルでの限られた運転資金と人的資源は限界を迎えています。その中で、フードバンク活動を維持し、さらに発展させて行くためには、フードバンクちばの体制を大きく見直す必要があると言えます。
<b>(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況</b>
現在、国(行政)は食品ロスの観点から、農水省が所管となり、一次産業、企業などから得る食品ロスを減らす取り組みは進められていますが、膨大な食品ロスがある一方で、生活に困窮する人達が増え続けているという社会の矛盾への対策は、まだまだ力不足です。困窮者自立支援法に基づく支援制度は、千葉県内ではようやく定着しつつあります。しかしながら、食料支援については、フードバンクちばへの依存度は高く、利用数も活動に協力的な民間団体に比べると、利用するだけの行政関係の件数はかなり多く、その経費のほとんどはフードバンクちばが負担しておます。

## 評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	氏名	役職等
内部	事業統括		代表
	事業進行・運営		事務局
	システム・予算管理		事務局
外部	事業評価アドバイザー		フードバンク岩手 事務局長
	事業評価アドバイザー		群馬医療福祉大学 社会福祉学部
	事業評価アドバイザー		群馬医療福祉大学 社会福祉学部
	プラットフォームアドバイザー		損害保険ジャパン株式会社
	総括的評価アドバイザー		

**評価実施概要**

評価実施概要	
評価①「千葉県内におけるフードバンク活動の状況や課題を十分に把握しているか」 「解決しようとする社会課題にはどのような解決の必要性・切迫性があるか」 実施日：7月～12月 実施方法：県内フードバンク団体および主だった支援機関からの実態聞き取り調査 主だった支援機関へのフードバンク活動についてのアンケート調査	
評価②「最終的に解決したい目標や短期・中期アウトカムを達成するための事業設計はできているか」 実施日：11月23日（祝）、12月14日（火）、12月24日（金）他 実施方法：県内関係者・事業評価アドバイザーを交えたワークショップ、事業評価アドバイザーとのミーティング	
評価③「達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか」 実施日：9月17日（金）、10月12日（火）、11月12日（金）、12月16日（木）他 実施方法：資金分配団体・関係者とのミーティング、他	
自己評価の総括	
<p>フードバンクちばは、設立から10年近くが経過する中で中核的フードバンクとしての機能を担いつつも、実際には体制が追いついていないというところに大きな課題があり、コロナ禍でさらにそれが浮き彫りとなる形になりました。今回の事業は、まさにその課題を克服するためのものであり、同時に中核的フードバンクとしての役割を盤石にすることで、千葉県内にフードバンク活動を基盤とした食のセーフティネットを構築するという大きなミッションを掲げています。</p> <p>事前評価のためのワークショップには、千葉県・県社会福祉協議会・市町村社会福祉協議会・生活困窮者支援機関・他フードバンク団体等にご参加いただきました。また、年末の支援物資配布会でも50を超える支援機関や団体がフードバンクに集まりました。その背景には、多くの企業や団体、そしてたくさんの方々の食品寄贈が前提があります。フードバンクというボランティア活動ならではの活動だけでなく、多くの団体や地域の方々がこの活動に関心を持ち、賛同し、協力しているという状況は、紛れもない事実であり、この活動を体系化する必要性の証明でもあります。3年間というタイムリミットの中で、すでに培ったネットワークをさらに有効活用し、フードバンク活動自体が支え合う社会のプラットフォームとして機能できるように連携を深めていくこと、合わせてシステム化・拠点化といった現場改革を計画的に進めていくこと、そのためには常に振り返り、状況に応じて軌道修正・評価していくことが重要となります。そして何より、その先にいる受益者の目線に立って物事を見極めていくことも忘れてなりません。</p>	

**評価結果の要約**

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	「千葉県内におけるフードバンク活動の状況や課題を十分に把握しているか」 フードバンク活動の背景にある千葉県における貧困問題はコロナ禍の長期化によりますます深刻化しています。相談支援機関への相談数は右肩上がりに増加しており、中でも食料支援が必要なケースは後を絶ちません。地域の支援機関が窓口配布用の食品を常備する取り組みや不定期ながらもフードドライブやフードパントリーを行うところが増えてきているのは地域の厳しい状況によるところが大きいと考えます。一方で、食品ロス削減は国連の目標値には全く届いておらず、相変わらず多くの食品が廃棄されています。そういった中でもSDG'sへの関心は高まっており、フードバンクへの食品寄贈もコロナ禍を背景に大きく増えています。フードバンクへのニーズの高まりに対応するためには、その双方の調整・取りまとめが大きな課題です。小規模フードバンクを含めても千葉県内全域に十分に食料支援が行き届く体制とはなっておらず、千葉県内に食のセーフティネットを整備することは貧困問題解決に役立つことは明らかです。
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	「事業の対象グループの選定は適切か」 1) 食品提供 ①公的セーフティネット構成団体 ②民間支援団体 ③その他関係団体 2) 食品供給 ①県内生協連等食品取り扱い団体 ②各種企業、団体でのSDG's活動におけるフードドライブ実施団体 3) 食品以外の支援 1) 2) との重複もあり これまでフードバンクの食品支援を利用した団体を含め、あらたに利用可能性のある団体を抽出し、把握する作業はこれからになります。同様に供給側の精査も進めていきます。
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	概ね高い	「最終的に解決したい目標や短期・中期アウトカムを達成するための事業設計はできているか」 「目標・アウトカムや事業設計の内容の達成状況、進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか」 ワークショップを通じてこの事業の目的・目標を関係団体と共有。千葉県職員をはじめ様々な立場の方々との意見交換し、課題の抽出を行いました。概ね方向性や事業設計に問題はないものの、実際の落とし込みの部分がまだまだ不足していることを実感しました。中長期アウトカム→短期アウトカム→アウトプット→活動の順に工程の再検討し、上記のように短期アウトカムを見直し、ロジックモデルへの落とし込みを検証中です。
	④事業計画の妥当性		

**事業計画の確認**

重要性（評価の5原則）
<p>本事業は千葉県内で誰もが食べ物に事欠くことがないように必要な支援を受けられるようになるために、フードバンク活動が食のセーフティネットとして機能することを目的としており、そのためには、フードバンクちばが中核的フードバンクとして県内の支援機関や協力団体と連携して、地域に根ざした持続可能な仕組みづくりが行われているかどうかを検証することが、評価において重要であると関係者間（実行団体・資金分配団体・外部評価者）で合意されました。3年後を見据えて、具体的な数字を多く掲げていくことも目先の事象にとらわれずに事業を進めていく上で大切ではないかと考えています。フードバンク活動における最終受益者をどこまで広げられるかは、この事業に関わる支援機関や協力団体をどこまで広げ、理解・協力を得られるにかかっています。これまでこちらから働きかけるというスタンスで活動してこなかっただけに、まずはフードバンクちば自身のあり方を変化させていくことが先決と考えます。</p>

**今後の事業にむけて**

事業実施における留意点
<p>外部との連携を進めていく分野に遅れが生じていますが、こちら側の対応についても見直しを進め、スケジュール管理をしていきたいと考えています。その他については概ね順調ですが、予想以上に食品提供が拡大しており、今後、受け入れの調整がますます難しくなることが想定されます。物流に関する事業を優先して進めていく必要性を感じています。</p>